

九州・沖縄地区ニュース

No.113 2015.3

//////////////////// Science Council of Japan //////////////////////

地区会議の活性化に向けて

日本学術会議 九州・沖縄地区 代表幹事 古谷野 潔

平成26年10月よりスタートした第23期の日本学術会議九州・沖縄地区会議の代表幹事を務めることになりました。地区会議の活動を盛り上げ、少しでも有意義なものとなるよう尽力いたしますので、よろしく願い申し上げます。

日本学術会議には、総会、役員、幹事会、3つの部、4つの機能別委員会、30の学術分野別の委員会、課題別委員会、7つの地区会議及び事務局が置かれています。日本学術会議地区会議運営要項には、「地区会議は、日本学術会議の諸活動を地区内の科学者等に周知徹底し、及び日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議と科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする。」と記されています。

九州・沖縄地区会議には、現在、会員11名、連携会員100名が在籍しています。毎年、地区内の2つの県において科学者懇談会および学術講演会を開催しています。平成26年度は、熊本県および大分県において、それぞれ熊本大学、大分大学にお世話役をお願いして開催いたしました。熊本では「いのちの水と生きる-熊本から世界へ-」をテーマに、大分では「高齢化社会を支える-地域医療と福祉テクノロジー-」と題した学術講演会を開催しましたが、いずれも多く参加者があり、大変有意義な会となりました。

科学者懇談会については、熊本には大西隆会長が、大分には井野瀬久美恵副会長に参加いただきました。井野瀬副会長は、地区会議参加の感想を以下のように記されています。

「・・・現代社会（そして世界）が抱える課題は、もはや単一の学知で解けるような単純なものではなく、だからこそ、学術会議に集結した異なる専門知をどのように絡め合わせれば総合知として意味あるものになるか、そこに学術会議の底力が問われているのだと痛感しました。言い換えれば、学術会議全体の活動に「横串」を通し、政府や社会、国民へのインパクトを高める、ということでしょうか。そのためにも、われわれの活動全体を俯瞰的に眺め直す必要があります。」

日本学術会議の活動の多くは、分野別委員会などの専門分野という縦糸で結ばれていますが、異なる専門分野のメンバーが所属する地区会議をうまく活用することで「横串」としての役目を果たすことができるのではないかと思います。会員や連携会員の多くは、それぞれ専門分野が異なりますので、同じ大学に所属していてもほとんど顔を合わせる機会もなく、意見交換する機会も少ないのが実情ではないでしょうか。科学者懇談会を開催する際に、開催県の連携会員にも科学者懇談会への参加のお声がけをさせていただいたところ、熊本では7名の連携会員にご参加いただきました。九州・沖縄地区所属の会員も3名出席しましたので、意見交換を通じて僅かながらも「横串」の役割が果たせたのではないかと考えています。

最近、地区会議の形骸化が指摘されていますが、この機会に地区会議を更に活性化していきたいと思っています。会員、連携会員の皆様には、地区会議の活動への積極的なご参加をお願いする次第です。

【科学者懇談会の開催】

平成26年度、九州・沖縄地区会議では、平成26年11月に熊本市及び平成26年12月に大分市において科学者懇談会を実施いたしました。

例年、九州・沖縄地区会議が主催する科学者懇談会においては、その時々々の学術を取り巻く環境が変わる中、日本学術会議の会員と、各地域にて研究活動を行っている連携会員及び研究機関に所属する研究者との間でこの機会に活発な意見が交わされております。

この度2回の科学者懇談会を開催し、熊本市では大西会長にお越しいただき、また大分市では井野瀬副会長にお越しいただき、それぞれ日本学術会議の活動等についてご報告いただいた後、日本学術会議と地区会議の連携のあり方、社会における科学の役割や健全な研究活動への提言などについて意見交換が行われました。

平成26年度第1回 科学者懇談会

日 時：平成26年11月3日（月）12:00～13:30

場 所：ANAホテルニュースカイ 熊本

出席者：

日本学術会議	会長	大西 隆
	九州・沖縄地区会議代表幹事	古谷野 潔
	九州・沖縄地区会議会員	秋葉 澄伯
	九州・沖縄地区会議会員	尾家 祐二
	九州・沖縄地区会議会員	小松 利光
熊本大学	学長（連携会員）	谷口 功
	理事・副学長（教育・学生支援担当）	山中 至
	理事・副学長（研究・社会連携担当）	原田 信志
	理事・副学長（人事・労務、企画、組織、	両角 光男

	情報ガバナンス、広報担当)	
	理事・副学長 (評価、目標・計画、入試、 高大連携担当)	安部 眞一
	大学院生命科学研究部教授 (連携会員)	入江 徹美
	大学院先進マグネシウム国際研究センタ ー長 (連携会員)	河村 能人
	発生医学研究所肝細胞部門教授 (連携会 員)	糸 照苑
	文学部総合人間学科教授 (連携会員)	積山 薫
	大学院生命科学研究部消化器外科学教授 (連携会員)	馬場 秀夫
熊本県立大学	副学長	津曲 隆
	総合管理学部教授 (連携会員)	石橋 敏郎
崇城大学	副学長	厚山 健次

平成26年度第2回 科学者懇談会

日 時 : 平成26年12月3日 (水) 12:30~13:30

場 所 : ホルトホール大分

出席者 :

日本学術会議	副会長	井野瀬 久美恵
	九州・沖縄地区会議代表幹事	古谷野 潔
	九州・沖縄地区会議会員	小松 利光
	九州・沖縄地区会議会員	前原 喜彦
大分大学	学長	北野 正剛
	学長補佐 (研究担当) 工学部教授	大鶴 徹
	工学部長	豊田 昌宏
	福祉科学研究センター長	下田 憲雄
	保険管理センター所長	工藤 欣邦
	医学部副学部長	宮崎 英士
大分工業高等専門学校	副校長	高橋 徹
日本文理大学	工学部長	安田 幸夫
別府大学	学長	豊田 寛三



熊本市内で開催した科学者懇談会の様子



大分市内で開催した科学者懇談会の様子

【学術講演会の開催】

平成26年11月3日（月）、熊本市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催、熊本大学ほか熊本県内の複数の教育研究機関の共催で、「いのちの水と生きる－熊本から世界へ－」をテーマにした学術講演会を開催しました。

また、平成26年12月3日（水）には大分市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催、大分大学ほか大分県内の複数の教育研究機関の共催で、「高齢化社会を支える－地域医療と福祉テクノロジー－」と題した学術講演会を開催しました。

「いのちの水と生きる－熊本から世界へ－」熊本大学

日 時：平成26年11月3日（月）14:00～17:00

場 所：ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

平成26年11月3日（月）に熊本市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催、熊本大学ほか熊本県内の複数の教育研究機関の共催・後援により「いのちの水と生きる－熊本から世界へ－」をテーマにした学術講演会を開催しました。

日本学術会議 大西会長及び熊本大学 谷口学長のご挨拶の後、熊本大学の大本教授及び熊本大学の嶋田教授の2名の先生方を講師に迎え、テーマに沿った講演を行っていただきました。次に「いのちの水と生きるために」をテーマに、谷口学長にコーディネーター、大本教授、嶋田教授、熊本日日新聞社から高峰取締役及び国土交通省九州地方整備局から古賀部長にパネリストとしてご参加いただき、パネルディスカッションを行い、講演の内容を深く掘り下げ議論しました。

当日は、大学関係者の他一般市民も含め、約100名の参加があり、盛会裏に終了しました。

【講演テーマ】

1. 熊本大学大学院自然科学研究科教授
大本 照憲

『近世の河川設計思想及び九州における近年の河川災害の特徴について』

2. 熊本大学大学院自然科学研究科教授
嶋田 純

『アジアモンスーン地域における持続的地下水管理のあり方ー熊本大学における研究と教育の両面での活動ー』

【パネルディスカッション】

テーマ「いのちの水と生きるために」



講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

50代男性

日頃聞けない話が聞けて勉強になりました。
大変興味深い話でした。

60代男性

身近なテーマで興味深かったです。
丁寧な説明で分かりやすかったです。

40代女性

熊本は地下水に関する研究も進んでおり、市民の関心も非常に高いという全国的にも珍しい地域ですが、研究機関で得られた最新の情報を市民へ伝えていく情報を共有するということ、減災のためにも地下水保全のためにも今後非常に重要になると感じました。有意義な時間をありがとうございました。

高齢化社会を支えるー地域医療と福祉テクノロジーー大分大学

日時：平成26年12月3日(水) 14:00~16:35

場所：ホルトホール大分

平成26年12月3日(水)、大分市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催で、大分大学、大分県内の大学の他、複数の地方公共団体等の共催・後援により、「高齢化社会を支えるー地域医療と福祉テクノロジーー」と題した学術講演会を開催しました。

大分大学が行っている高齢化社会を担う人材の育成の取り組み、高齢化社会を支えるロボット技術及びアルツハイマー病の克服に向けた最新の医療技術について各講師人により講演をいただき、大変興味深い、素晴らしい学術講演会となりました。

当日は、大学関係者の他一般市民も含め約90名の参加があり、大分大学でおこなっている人材育成、研究内容等が分かって良かった、次回もこのような会に参加したい旨の感想がたくさん寄せられました。

【講演テーマ】

1. 宮崎 英士教授
「超高齢化社会における地域医療を担う人材養成」
2. 三重野 英子教授
「認知症ケアに携わる看護専門職の人材育成」
3. 菊池 武士准教授
「高齢化社会を支えるロボットテクノロジーの可能性」
4. 松原 悦郎教授
「新国民病「認知症」：アルツハイマー病の克服に向けて」



講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

20代男性

どの講演も大変分かりやすく、興味深い題目だった。現実問題のシビアな内容から、最新のテクノロジーを利用した夢のような講演が聴けて良かった。

30代女性

それぞれのお立場からの高齢化社会を支えるための意見ということで、とても興味深い講演でした。

60代男性

- ・ 大分大学医学部では医学科及び看護学科では、ウォームハートを備えた人材の育成に取り組んでおられることがよく分かった。
- ・ 大分大学医学部が地域医療を担う人材の育成・確保に知恵を絞っていることがよくわかりました。ありがとうございます。
- ・ 素人にも分かる講演で大変面白かったです。

【お知らせ】

日本学術会 九州・沖縄地区会議では、以下のとおり学術講演会の開催を予定しております。
詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。

日時：2015年9月8日（火）午後

場所：九州大学 伊都キャンパス稲盛財団記念館稲盛ホール（予定）

日本学術会議 九州・沖縄地区会議

会員一覧

- 青木 玲子（第一部所属 九州大学 理事・副学長）
秋葉 澄伯（第二部所属 鹿児島大学 医歯学総合研究科 教授）
巖佐 庸（第二部所属 九州大学 大学院理学研究院 教授）
尾家 祐二（第三部所属 九州工業大学 理事・副学長）
小松 利光（第三部所属 九州大学 大学院工学研究院 名誉教授）
古谷野 潔（第二部所属 九州大学 大学院歯学研究院 教授）
高原 淳（第三部所属 九州大学 先端物質化学研究所 教授）
土井 政和（第一部所属 九州大学 大学院法学研究院 教授）
前原 喜彦（第二部所属 九州大学 大学院医学研究院消化器・総合外科 教授）
安浦 寛人（第三部所属 九州大学 理事・副学長）
山下 俊一（第二部所属 長崎大学 理事・副学長） ※五十音順
・九州先端科学技術研究所所長

発行 2015年3月

編集 日本学術会議 九州・沖縄地区会議

日本学術会議 九州・沖縄地区会議事務局

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学企画部学術研究推進課内

電話 092-642-7074（ダイヤルイン）

FAX 092-642-7090

E-mail kissomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

